



組み立てを終えたリフト。1台ずつ検査をしていく

工場探訪

「カントー」御殿場工場 リフトお望み通り製造

御殿場市永塚にある「カントー」御殿場工場は、荷物の積み上げや移動の際に使うリフトを製造してきた。同社の

学校で楽器運搬にも活躍



小さなクレーンのように使用するリフト

製品の多くは、省力化を求める工場や物流拠点で使われてきたが、学校など用途は様々な分野に広がっている。山下浩司社長(49)と生産部の吉本裕之部長(58)が、工場を案内してくれた。

まず見せてくれたのは、組み立て中のリフトだ。よく見ると、脚部の長さ、アームの形などがいろいろある。ドラム缶や荷物用パレット、電線などを巻いたロールなど、運搬対象が違えばアームも異なるため、従業員が一つずつ確認しながら部品を取り付ける。製品カタログはあるものの、カタログ通りに作るこ



【メモ】創業は1933年。本社は東京都目黒区。70年に御殿場工場を設立した。従業員は36人おり、地元から通勤している。一般の工場見学は受け付けていない。

る。山下社長は「すべて顧客の注文に応じたオーダーメイド」と解説してくれた。重い荷物を安全に持ち上げ、移動する——という目的は同じでも、納入先によって使う場面は様々だ。リフトを動かせるスペースの広さも違う。製品カタログはあるものの、カタログ通りに作ることは、ほとんどないそうだ。自動化が進む製造現場では、リフトの役割は広がっている。その一つが、材料を持ち上げ、別の容器に移す「移動式投入反転機」という製品だ。

例えば、製菓や製パンなど食品業界では、原材料を容器の中で混ぜたあと、容器を持ち上げて反転させ、混ぜた材料を次の工程に移す。クリールルームで使えるものもあり、製菓会社の工場などでも幅広く使われている。吉本部長は、「工場見学のテレビ番組を見ていると、うちの製品がよく映り込んでいる」と笑う。

リフトが使われる場所はこれまで工場や物流拠点が中心だったが、想像していなかった使い道も出ている。「学校の体育館のステージにグラランドピアノを上げるため」「大太鼓を安全に運ぶため」といったリクエストも、口コミで徐々に増えているという。

(松本貴裕)